

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム かじかの里		
所在地	山口市徳地八坂1330番地		
電話番号	0835-56-1377	事業所番号	3577500113
法人名	社会福祉法人 佐渡福祉会		

訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日	評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人 非常勤 0 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 34,500 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
その他の費用	月額 7,000 円			
	内訳 光熱水費 6,000円 教養娯楽費 1,000円			

(4) 利用者の概要 (9 月 30 日現在)

利用者数	9 名		男性	2 名	女性	7 名
	要介護 1	2	要介護 4	0		
	要介護 2	6	要介護 5	0		
	要介護 3	1	要支援 2	0		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 財団法人 防府消化器病センター 歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員は「急がない、せかさない、一緒にゆっくり」の理念を実践し、利用者本人の気持ちやペースを大切に、自然体でケアされており、利用者が穏やかに過ごしておられる様子が伺えました。毎月のカレンダー作り、貼り絵、読書、テレビ視聴、歌、調理、野菜づくり、散歩、買い物、外食、日帰り旅行、などなど、たくさんの場面づくりをし、一人ひとりの趣味や楽しみごと、気晴らし、生きがいにつながる支援をされています。食事は3食ともホームで調理され、地域のヘルスメイトのレシピを活用し、併設施設の管理栄養士の助言を得て、物価高の中、食材を工夫され、栄養バランスの良い、おいしい物を提供されています。

(特徴的な取組等)

夜勤は1ユニットで1人体制ですが、何かあれば直ぐに併設施設からの応援が得られ、夜勤者にとって心強い協力体制となっています。地域ボランティアとの連携が充実しており、音楽療法を月に1回、読み聞かせを月2回、そば打ち、散髪、ドライブ(小旅行や外食等)の外支援助など、たくさんの協力があり、利用者は交流を楽しみにしておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の改善項目については、できるところから取り組まれています。併設施設の管理栄養士による献立のチェックや栄養バランスへの助言を受け、利用者への食事提供をされています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解され、全職員がそれぞれに評価されたものを、全体で一問一答で検討し、4時間かけて作成されました。検討の中で、理念の中に地域との関わりについて加えることに気付いて話し合われています。また、評価は日々のケアの見直しとして捉えておられます。

(運営推進会議の取組状況)

民生委員、地域包括支援センター分室職員、警察派出所巡査長、利用者、家族2名、法人ケアマネジャー、施設長、管理者等のメンバーで、定期的に関係が保たれ、積極的に話し合われています。

(家族との連携状況)

毎月1回発行しているホームだより、行事での利用者の様子やホームでの暮らしぶりを写真にし、担当職員のコメントを添えて送付されています。面会時や電話等で報告したり、意見や要望を聞かれました。

(地域との連携状況)

運動会、お祭り、お大師様のお接待、文化祭などに参加し、地域の人と交流され、また、地域ボランティアが読み聞かせ、そば打ち、散髪、音楽療法、外出支援などで定期的に訪問して、利用者を楽しめる支援をされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>開設当初より「急がない、せかさない、一緒にゆっくり」の理念のもと、安心して暮らせるよう支援している。地域密着型サービスとして、地域との関わりについて話し合い、地域との交流に努めている。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の見直し</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>施設内に理念を掲示し、毎日、朝・夕の申し送り時、昼食後のミーティング時に理念を唱和して共有している。日々、理念を確認し実践に取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>小学校の運動会、お祭り、お大師様のお接待、文化祭などに参加し、地域の人々と交流している。地域ボランティアが読み聞かせ、そば打ち、散髪、音楽療法などで定期的に訪問して交流している他、外出支援などの協力もある。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の評価結果については、できることから改善に取り組んでいる。併設施設の管理栄養士による献立のチェックや栄養のバランス等の助言を受けている。自己評価は全職員がそれぞれに実施したものを、全体で一問ずつ検討し、4時間かけて作成している。評価は日々のケアの見直しとして捉えている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員、市職員、警察署派出所巡査長、利用者、家族、法人ケアマネ、施設長、管理者のメンバーで定期的に開催し、積極的に話し合っている。外出時、利用者の持ち物や衣服等に名前を明記したらどうかの意見があり、検討されている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の総合支所、担当者と連絡を取り合い、相談したり、助言を受けながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回発行しているホームだよりに、行事での利用者の様子やホームでの暮らしぶりを写真にし、担当職員のコメントを添えて送付したり、面会時や電話等で報告している。職員の異動についてもホームだよりに載せている。写真は、利用者の元気な姿が伝わると好評で、シャッターチャンスの数々が、家族の絆を深める媒体ともなっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	電話や面会時、家族が行事に参加したとき、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。意見箱(苦情箱)を設置している。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤職員7名を確保し、利用者の状況の変化や要望に応じて勤務の調整に努めている。職員の急病や、急な休みの時は、職員の勤務交代で対応できるよう柔軟な体制をとっている。夜勤の緊急時には併設施設からの支援がある。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内の他部署との職員の入れ替わりが定期的にあるが、利用者への影響に配慮し、馴染みの職員が利用者に声かけするなどダメージを防ぐよう支援している。離職届けは2ヶ月前に提出してもらい、引き継ぎを十分に行ない、スムーズに移行できるよう努力している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修、外部研修とも勤務の一環として、全職員に参加の機会を提供している。研修内容はミーティング等で復命し、共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	月1回開催されるグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換している。勉強会や見学などで交流している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に利用者、家族に見学してもらい、お茶を飲んだりしながら、ホームの様子を伝え、雰囲気に馴染めるよう努めている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>畑づくりや食事の準備、食事、後片付け、工作、外出など、一日を一緒に過ごす中で、野菜の植え付け作業や、野菜の切り方を利用者に教わるなど、一方的な介護にならないよう、共に過し支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合はサービス担当者会議に本人、家族の参加を得て話し合い、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>一人の職員が2名の利用者を担当している。月1回のケアカンファレンスには全職員、本人、家族が参加し、担当医、栄養士の意見も含め、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>ケアチェックシートでモニタリングし、3ヶ月ごとに見直しをしている。状態に変化があるときなど、必要に応じて見直し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>帰宅願望のある利用者を2週間に1回利用者が自宅まで郵便物を取りに帰る支援や、個別の買い物、ドライブなどの外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医や協力医と連携をとり、希望する利用者には、家族の協力を得て、受診の支援をしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の状態が要介護度4になった場合に、併設の特別養護老人ホームへの転居が可能であることなど、重度化や終末期の対応について、契約時に家族に方針を示し説明している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りを尊重し、日々のケアで言葉かけや態度に気を付けて対応している。ホーム内研修でプライバシー保護について確認し、個人記録等はロッカーに保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、起床や朝食時間等自由で「急がない、せかさない、一緒にゆっくり」の理念を实践し、本人の気持ちやペースを大切にしている。自然体で、工作、貼り絵、読書等、個々の趣味に合わせてグループを作り、その日の担当者が希望に添う選択の楽しさも提供している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食ともホームで作り、食事の準備から片付けまで利用者と一緒にし、同じテーブルで一緒に食事(職員はお弁当)を楽しんでいる。個々のペースに応じて、ゆっくり最後まで食べている様子が伺えた。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日可能で、個々の希望、体調、タイミングに応じて、概ね昼食後から夕食前までの時間帯に行なわれている。ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌を歌ったり、新聞や本を読んだり、テレビ視聴、貼り絵(月毎の壁画作り)、野菜づくり、食事の準備、後片付けなど、楽しみごとや気晴らし、生き甲斐につながるよう支援している。ボランティアによる音楽療法、そば打ちなどを楽しんでいる。役割をケアプランの中に繰り返し入れたり、役割り分担表の掲示に従って自分の役割りに責任を持つことで、利用者の張り合いになっている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、自宅訪問、ドライブなどの外出の支援をしている。月2回の外出、日帰り旅行(花見や公園)など、ボランティアや家族の協力で、外出が楽しめるよう配慮している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に付いてミーティングで話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけていない。チャイムが鳴り、利用者の外出を察知したら止めるのではなく、職員がさりげなくついていくなどの支援をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各マニュアルがあり、事故・ヒヤリはと報告書に記録し、対策を検討し、事故防止に取り組んでいる。一人ひとりの状態に応じては、ケアプランの中に採り入れて、歩行時の様子の見守りやポータブルトイレの使用など、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急連絡マニュアル表があり、緊急の場合の連絡体制や対応に関する綴りを整備し、救急救命法講習を受講している。応急手当や初期対応の訓練は実施していない。緊急時には併設施設からの応援が得られる。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施している。地域の避難場所に指定されている所は、川の向こう側にあり、橋を渡ることになるので、洪水の時は適さない。地域住民から協力を得るための働きかけはしていない。	・地域住民の協力を得るための働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報(目的・副作用・用法等)をファイルし、全職員が把握している。薬はその都度手渡し、口に入れ飲み込むまで必ず確認している。必要な情報は看護師(職員)から医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声掛けや見守りで個々に応じた口腔ケアの支援をしている。義歯の消毒についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	併設施設の管理栄養士の助言やヘルスメイトのレシピを利用した献立で、栄養バランスの良い食事を提供している。食事摂取量は記入し、水分摂取は量の少ない利用者へコップを工夫するなどして、一日を通じて確保できるよう支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、手洗いやうがい、清掃、消毒などを行い、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホールの温度や明るさは適度であり、換気にも配慮している。共用空間は明るく広く、季節感のある利用者と職員で作った貼り絵が飾られている。調理の音や匂いなど、生活感もある。テーブル、ソファ、ウッドデッキの籐椅子など利用者の居場所があり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、机、椅子、テレビ、鏡台、写真、本人の作品など、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく落ち着いて過ごせるよう支援している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	かじかの里
所在地	747-0344 山口市徳地八坂1330番地
電話番号	0835-56-1377
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

高齢で認知症の方の尊厳を保ちながら「急がない」「せかさない」「一緒にゆっくり」をスローガンとして、家庭的な雰囲気の中で日々を明るく穏やかに安心した生活ができるように援助します。自分らしい生活の支援、又規則や規定を設けず可能な限り自立した普通の生活を送ることにより認知症緩和に努めると共に残存機能の維持に努めます。また昨年度から導入している介護予防事業に認知症緩和は勿論、よりその人らしさを目指しぬくもりのある援助に励みたいと思います。

【実施ユニットの概要】 (9月1日現在)

ユニットの名称	かじかの里				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	9 名		男性 2 名	女性 7 名	
	要介護1	2名		要介護4	
	要介護2	6名		要介護5	
	要介護3	1名		要支援2	
年齢構成	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 90 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員7名各個人が自己評価表に基づき実施する。その後全体が集まり一問ずつ意見を出し合いまとめた。
評価確定日	平成 20 年 8 月 21 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の運営テーマ 敬愛の精神を基調にして「和と安らぎのある生活を支援します。」というスローガンを掲げている。	○	理念の中に地域との関わり合いという文言を入れる。
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日、朝・夕の引継ぎ時、ミニカンファレンスにて理念の唱和をし共有し、意欲的に取り組んでいる。		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	運営理念・ホームのサービスの特徴をホーム内に掲示している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	サービスの質の向上に向け、日々研鑽や研修を受講している。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	3ヶ月に1度、全戸配布の広報誌で報告・啓発できている。家族には、かじかの宿公布できている。		
2. 地域との支えあい				
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	利用者のプライバシーを考慮しながら、その中で声をかけ立ち合っている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	可能な限り地域のイベントには参加している。その時に地元の人との交流を行っている。		
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	3ヶ月に1度の広報誌で掲載し地域の高齢者に役立つよう取り組んでいる。法人として訪問介護員の開設協力。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	例年の改善策を把握して具体的に改善・実行している。(包丁の置き場所等)	
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	出た意見をもとに改善を図るように努力している。	○ 話し合った内容、利用者の持ち物や衣服に名前を明記したらというような意見を今後のサービス向上に活かしていく予定。
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町との連携は、運営推進会議のみならず介護保険関連の手続きやサービス向上に繋がるアドバイスを受けている。	
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	外部研修により受講した項目について複伝し、必要性を関係者と話しあい、今後役立つように研鑽している。	
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待の事実はない。常日頃から職員会議や処遇会議を通してやさしい言葉使いやいたわりの気持ちで介護支援を行うよう喚起している。	○ 今後も見過ごされることがないよう注意を払い防止に務める。
4. 理念を実践するための体制			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は重要事項、約款に基づき十分に説明できている。解約も十分な説明を行っている。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱設置すると共に、運営推進会議の開催や市の介護相談員の訪問を受け入れるなど、ご利用者の意見の反映に努めている。	
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホームだより(かじかの宿)と、担当職員からのメッセージカード、また面会時にて家族に報告・説明している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	インターネット及び、面会時に見ていただけるよう玄関の窓口を設置している。		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情箱の設置、苦情窓口の担当者、第三者委員、外部機関を示し処理の手続きも示している。		
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営理念(介護理念)に基づいての介護の五信条を職員室に掲示。月例会議で意見を求めている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟に対応可能な職員配置において対応できている。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今年度の職員異動は多人数であり、利用者へのダメージが大きかった。	○	職員異動は必要最小限に行い、利用者へのダメージを防ぐよう配慮する。
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修により育成できている。各職員も複命書により内容を把握している。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20歳代～50歳代までの対応である。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修に取り組み、質の向上に心がけている。	○	内部研修は行われていないので今後取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	話しやすい雰囲気作りを作っている。歓送迎会や忘年会などで解消している。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の自発性を尊重した目標管理制度を導入している。	○	職務基準書を作成している段階
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	目標管理制度による能力開発の業務目標の達成状況を面談を踏まえて評価することとしている。	○	能力開発カード作成中
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	自宅・及び滞在施設を訪問し、情報入手・アセスメントしている。元ケアマネージャーからの情報も入手している。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	訪問・もしくは家族に来院していただき相談に応じている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所待ちなどで家族の介護負担の軽減のため、他のサービスの利用も説明している。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	希望者には、見学を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	グループホームかじかの里介護理念「あなたの思いと願いをきかせていただきます」に基づき、利用者の立場に置き換えて支援する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	○	馴染みの人や場所の支援に努めているが、今後はふるさと訪問なども行っていきたい。
36	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	○	これからは、全ての利用者に参加していただきたい。
39	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ <u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人に今何が必要か、何を支援すればこの人の生活が生き生きするか、本人を交えて生の声を計画に入れる。	
42 (17)	○ <u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間中であれば、その都度集まりサービス担当者会議を開き見直しを行っている。	
43	○ <u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	処遇会議で評価・考察をしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ <u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	現在該当なし。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ <u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各ボランティアや、民生委員、近隣の警察に協力していただいている。	
46	○ <u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	音楽療法、視察の受け入れ、研修の受け入れなど行っている。	
47	○ <u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特に行っていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p><u>○地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	該当者がいれば行っていいきたい。
49 (19)	<p><u>○かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><u>○認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><u>○看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><u>○早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><u>○重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><u>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p><u>○住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	<input type="checkbox"/> 常日頃からいたわりのある言葉かけを行うようあらゆる機会を通じて喚起している。	
57	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	<input type="checkbox"/> レクリエーションなどは選択の幅を広げ選んでもらっている。	
58	<input type="checkbox"/> “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	<input type="checkbox"/> 家事での調理(味付け)では各利用者の能力を生かしながら協力していただき支援を行っている。	
59 (22)	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<input type="checkbox"/> 介護理念の「思いと願いを聞かせてもらっている」	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	<input type="checkbox"/> 馴染みの美容院、理髪店や散髪ボランティアで支援している。	
61 (23)	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<input type="checkbox"/> 作ることが好き、味付けが好き、盛り付けが上手、かたづけが得意な利用者さん達と職員が一緒に行っている。	
62	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	<input type="checkbox"/> 少数の利用者の希望や家族からの持込のある方のみ行っている。	
63	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<input type="checkbox"/> 日中と夜間の排泄パターンをアセスメントしてオムツを調整している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	その日の入浴担当を決めている。午後14時から17時の希望の時間を相談しながら行っている。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	夜間の安眠を妨げない程度に体調を考慮して行っている。居室だけでなく畳コーナーでも休むことができる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ケアプランで固定した役割を作り自分の仕事として責任を持って行っている。買い物やドライブを随時行っている。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談しながら出来る方は自発的に行ってもらっている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	雨以外の日は屋外散歩の支援や週2回の買い物の日を設定している。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月2回の苑外活動を行い、参加可能な家族は誘っている		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話はないので職員室の電話を臨機応変に使用している。	○	子機が必要。
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者の受け入れ時「いらっしゃいませ」と職員が明るく接している。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の宿泊の必要時は適切に対応している。(過去に事例あり)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○<u>家族が参加しやすい行事の実践</u> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○<u>身体拘束をしないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	○	スピーチロックに十分注意する。
75 (28)	<p>○<u>鍵をかけないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	○	自由に外に出てもよい環境をつくる。
76	<p>○<u>利用者の安全確認</u> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	○	のれんは全員に徹底してゆく。
77	<p>○<u>注意の必要な物品の保管・管理</u> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>○<u>事故防止のための取り組み</u> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>○<u>急変や事故発生時の備え</u> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>○<u>再発防止への取り組み</u> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリはっと報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練で実施して非常口などの把握をしていた。地域の協力の働きかけなどは行っていない。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	各ケアプランに基づき対応している。危険であると思われるものは苑で預かり必要に応じて提供するようになっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ケース記録、業務日誌、伝達帳にて情報を共有している。体調の変化は見逃さないようにしている。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一冊のファイルにまとめている。職員全員が把握して日々の観察により変化を察知して服薬の管理を行っている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	高齢者の特徴である。便秘の改善のため食事に関しては日々の献立に繊維質の野菜を取り入れている。水分補給を促し毎日行うラジオ体操や散歩など身体を動かすこともすすめている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後全員に声掛け、個別にも対応している。義歯は週1回ポリドントで消毒している。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の摂食表を作って記入している。水分に関しては摂取量が少ない利用者はコップを大きく設定する等工夫している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	予防対策として常日頃から実行している。塩素系消毒薬、アルコール系消毒薬で予防している。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	信用のおける店を4箇所設定。ほぼ2箇所を頻繁に利用している。衛生管理では職員全員が把握し利用者にも促している。一食毎の提供で残ったものは絶対に次に廻さない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手すりやスロープなどを設置、玄関も暖かい雰囲気にしてあり対話スペースをつくっている。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎日の掃除は勿論のこと、利用者にとって居心地が良い場所を提供するなど常日頃から利用者側に立って工夫している。(生け花、金魚等)	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間においても利用者同士が落ち着けるようなソファやテーブルなどを置き工夫している。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	現在まで使用していたなじみのある家具などを持ち込んでいただき使用している。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調整を行い換気にもつとめる。冷暖房においては外気温と5度の差をこころがけている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	移動時の転倒防止対策のため手すりをほうぼうに設置している。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	急がない せかさない 一緒にゆっくりのサービスの特徴をスローガンに支援している。	○ 出来る力を職員が認め、ほめる。失敗した時はそっとしておきよい面が表に出るよう に支援している。
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ウッドデッキなどに籐椅子やテーブルを設置9名座る事が出来る。それにより気分転換も図れる様にしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	④ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない